

## ② スポーツ大会運営委託事業

教育委員会スポーツ課  
体育施設グループ

## 1 事業概要

施 策 番 号	4 - 5
施 策 名	スポーツ交流の推進
施 策 目 標	各種スポーツを通じて、健全な体位・体力の向上を図り、有能な指導者の養成に努め、一人でも多くの市民が楽しくスポーツができるよう普及拡大に努める。
事 務 事 業 名	スポーツ大会運営委託事業
担 当	教育委員会 スポーツ課 体育施設グループ
開 始 年 度	昭和 50 年以前
法 的 根 拠 等	根拠法令等なし
事 業 の 目 的	各種スポーツを通じて、健全な体位・体力の向上を図り、人間性豊かな市民づくりを目指し、有能な指導者の育成に努める。また、スポーツグループづくりの推進や一人でも多くの市民が楽しくスポーツができるよう普及拡大に努める。
事 業 費 (人件費相当額を含まず。)	平成 26 年度予算額 11,500 千円 平成 25 年度決算額 10,058 千円
人 員	平成 26 年度 0.40 人 (人件費相当額 2,600 千円) 平成 25 年度 0.40 人 (人件費相当額 2,600 千円)

## 2 事業内容

### (1) 事業の背景

各種競技スポーツ、レクリエーションスポーツのエキスパートが所属する団体に構成される「稲沢市体育協会」に各種大会を委託することにより、円滑で魅力ある大会運営が期待できる。

また、600人に及ぶ競技役員が必要な「シティーマラソン」の大会運営においても、陸上競技協会を中心として、豊富な人材を抱える市体育協会に委託し、人材の確保はもちろん、スポーツに関する豊かな知識により、スムーズな運営が行われている。

(2) 事業の実績及び経費

主な事業	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
市民体育大会	18 種目 3,781 人 2,557,306 円	18 種目 3,137 人 2,525,080 円	18 種目 3,154 人 2,474,177 円	19 種目 3,101 人 2,578,112 円
シティーマラソン	4 種目 20 競技 3,520 人 8,487,763 円	4 種目 20 競技 3,432 人 8,387,522 円	4 種目 22 競技 3,575 人 8,786,918 円	4 種目 22 競技 3,456 人 8,949,939 円
スポーツ・レクリエーション大会	12 種目 226 人 648,520 円	12 種目 214 人 613,886 円	13 種目 247 人 671,026 円	13 種目 216 人 643,060 円
青年体育大会	出場なし	出場なし	1 種目 13 人 78,000 円	1 種目 7 人 42,000 円
愛知駅伝	選考会 56 人 478,519 円	選考会 58 人 612,798 円	選考会 61 人 539,325 円	選考会 80 人 495,291 円

### (3) 現状と課題

健康増進や生きがいづくりのため、スポーツへの市民の参加意欲は十分内在化しているが、「競技団体役員の高齢化」や「事業のマンネリ化」などにより、参加人数が停滞している。

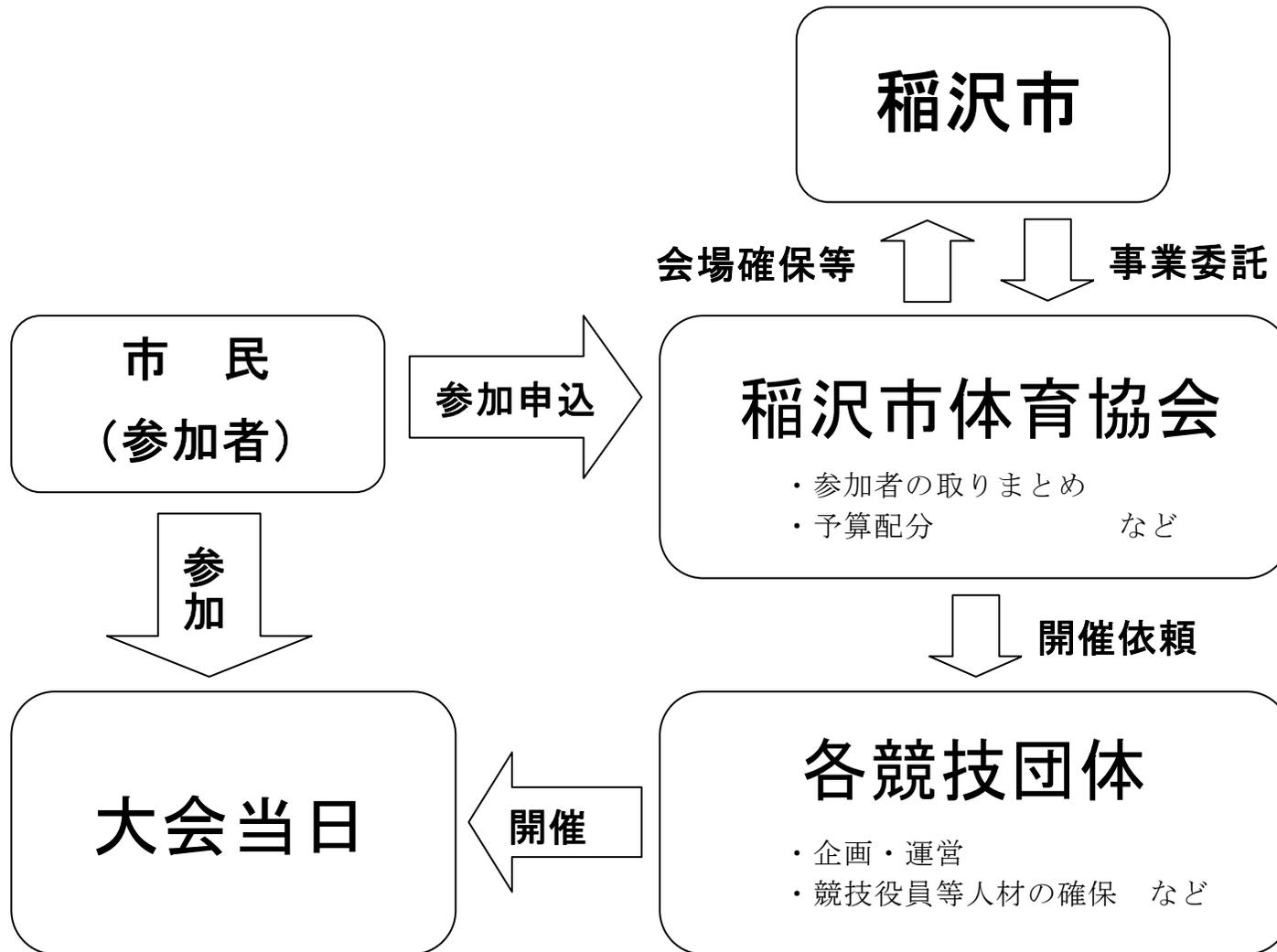
より魅力的なスポーツ大会となるよう、「競技数の拡大」や「年齢や競技レベルなどによる制限を設けて、種目の細分化を促進する」などの工夫をしている。

平成 24 年度には、シティーマラソンの競技数を「2 競技」増やすことができた。

平成 25 年度は、市民体育大会に新たな競技として「ボウリング競技」を開催した。平成 26 年度は新たな競技を増やすことはできなかったが、平成 27 年度には「ハンドボール競技」の開催を目標としている。

また、競技役員としての参加を、若い選手を中心に勧誘し、競技団体の若返りを促進している。

### 3 事務事業イメージ図



#### 4 1次評価の考え方

妥当性の観点	市民の健全な体位・体力の向上を図り、有能な指導者の養成に努め、一人でも多くの市民が楽しくスポーツができる環境づくりを推進するため、市が実施する事業として妥当である。
有効性の観点	それぞれの競技の特性にあった競技内容、企画、運営を、稲沢市体育協会に委託することにより実現している。参加者が必要としているサービスを提供するために有効であると考えます。
効率性の観点	「各競技種目のルール改正」や「スポーツ用具などの変化」によって生まれる新たなニーズに迅速に対応するためにも、各種目に精通した人材が必要である。
今後の方針	マンネリ化を打破し、魅力ある大会を開催することによって、生涯スポーツの普及振興に努める。 そのために、より多くの選手が大会に参加できるよう、「競技数の拡大」や「年齢や競技レベルなどによる制限を設けて種目の細分化」を行ってきたが、今後も参加者の動向を参考に進めていく。



a3: 事業に必要な経費

コスト把握(手段実施にいくらかかるか)		(単位:金額は千円、職員数は人)				単位当たりコスト	
費目	内容	24年度	25年度	26年度	27年度	平成26年3月31日現在	
コスト	委託料	市民体育大会等運営委託	12,550	12,709	13,600	14,000	人口 138,399 人 ⇒ 市民一人当たりコスト 129.81 円
	補助金	-	0	0	0	0	世帯 52,181 世帯 ⇒ 一世帯当たりコスト 344.30 円
	その他	臨時職員賃金	2,644	2,657	2,676	2,676	
	人件費	従事職員数×6,500千円	2,600	2,600	2,600	2,600	事業の対象(者)数 対象 - 人 ⇒ 対象単位当たりコスト - 円
従事職員数		0.40	0.40	0.40	0.40		
計		17,794	17,966	18,876	19,276		
収入	国・県支出金	-	0	0	0	0	特記事項
	その他	参加料、保険料	2,538	2,650	2,650	2,700	-
差引市税等		15,256	15,316	16,226	16,576		

b1: 個別評価

Side b

個別項目		評価観点	評価(3高~低1)		
妥当性	目的妥当性	1: 事業の目的は、上位施策の実現につながっているか?	⇒ 3	上位施策の実現のために不可欠である	5
	市の関与	2: 国・県・民間事業者との役割分担や市民活動のあり方等から、市が実施することが妥当であるか?	⇒ 2	市と市民・民間事業者等とで協働すべきである	
有効性	社会環境への適合性	3: 事業の目的等は、社会経済情勢の変化など時の経過に適切しているか?	⇒ 3	社会環境に適合している	8
	市民ニーズ等	4: 利用者・対象者の推移等からみて、市民ニーズは低下していないか?	⇒ 3	市民ニーズは低下していない	
	進捗度合い	5: 事業の成果は上がっているか?	⇒ 2	どちらかといえば成果が上がっている	
効率性	活動・手段の最適性	6: 活動・手段は、最適なものとなっているか?	⇒ 3	活動・手段は適している	8
	受益者負担	7: 受益者の費用負担(補助金・負担金等は、補助・負担割合)は、社会経済状況や物価の推移などに照らして適切であるか?	⇒ 2	負担割合を部分的に見直す余地がある	
	コスト削減	8: 事務の見直し等による従事時間の縮減やコスト削減の余地はないか?	⇒ 3	コスト削減の余地はない	



b2: 総合評価

総合評価と所見	評価	総合コメント(個別評価の結果を踏まえて、事務事業の課題を整理)	【総合評価・記号の定義】
	B	これまでの事業運営については、概ね順調に推移してきているが、競技スポーツ及びレクリエーションスポーツともに、競技人口が停滞傾向にある。生涯スポーツとして楽しめるレクリエーションスポーツの振興を柱として、心身ともに健康増進を目的としたスポーツを、広く手軽に楽しめる環境づくりが求められており、それらの啓発・育成が重要な課題となっている。	A: 計画どおり事業を進めることが適当である B: 事業の進め方などに改善が必要である C: 事業規模・内容・実施主体の見直し、又は事業の統合の検討が必要である D: 事業の廃止・休止の検討が必要である



b3: 改革・改善計画

改革・改善の方針	事業の方向性	<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 維持 <input checked="" type="checkbox"/> 方法改善 <input type="checkbox"/> 統合・縮小 <input type="checkbox"/> 市民協働・民間委託 <input type="checkbox"/> 廃止・休止
	投入するコスト	<input type="checkbox"/> 増額 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 減額 <input type="checkbox"/> 投入しない
改革・改善の方針	事業のマンネリ化を打破し、魅力あるスポーツ大会を開催することによって、生涯スポーツの普及・振興に努める。	
これまでの取組状況	より多くのかたがスポーツ大会に参加できるよう、競技数の拡大や、年齢・競技レベル等による制限を設けて種目の細分化を図っている。平成25年度については、市民体育大会に新たな競技としてボウリング競技を実施した。また、競技役員としての参加者について、若いかたを中心に勧誘している。	
今後の実行計画	平成26年度については、スポーツ大会に新たな競技を増やすことはできなかったが、平成27年度にはハンドボール競技を開催することを目標にしている。また、各競技種目の細分化についても、参加者の動向を参考にして進めていく。	